



平成27年11月5日

各 位

上場会社名 矢作建設工業株式会社
 代表者名 取締役社長 高柳 充広
 (コード番号: 1870 東証1部・名証1部)
 本社所在地 名古屋市東区葵三丁目19番7号
 問合せ先責任者 執行役員 経理部長 川口 亮
 TEL 052-935-2348

IR資料 当社グループの経営現況について

平成28年3月期第2四半期連結決算

当社グループの平成28年3月期第2四半期連結決算の概要と経営現況を以下の通りまとめましたので、ご参照下さい。

I. 連結損益の状況について

□ 連結経営成績

(単位: 百万円)

	H27.9 実績	H26.9 実績	増減率	期首計画 (※)	計画比	H28.3 通期予想 (※)	H27.3 実績	増減率
売上高	42,560	38,584	10.3%	41,000	3.8%	87,000	82,528	5.4%
完成工事高	38,100	32,511	17.2%					
兼業事業売上高	4,460	6,072	▲26.5%					
売上総利益	6,761	7,725	▲12.5%					
(売上総利益率)	(15.9%)	(20.0%)	(▲4.1pt)					
完成工事総利益	5,386	6,295	▲14.4%					
兼業事業総利益	1,374	1,429	▲3.9%					
販売費及び一般管理費	4,045	3,959	2.2%					
営業利益	2,716	3,765	▲27.9%	2,700	0.6%	7,000	6,795	3.0%
(営業利益率)	(6.4%)	(9.8%)	(▲3.4pt)	(6.6%)	(▲0.2pt)	(8.0%)	(8.2%)	(▲0.2pt)
経常利益	2,717	3,699	▲26.5%	2,600	4.5%	6,900	6,680	3.3%
(経常利益率)	(6.4%)	(9.6%)	(▲3.2pt)	(6.3%)	(0.1pt)	(7.9%)	(8.1%)	(▲0.2pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,936	2,476	▲21.8%	1,600	21.0%	4,200	3,640	15.4%
(四半期純利益率)	(4.5%)	(6.4%)	(▲1.9pt)	(3.9%)	(0.6pt)	(4.8%)	(4.4%)	(0.4pt)

(※)平成27年5月8日公表値。

【H28年3月期第2四半期(H27.9月)】

- 平成28年3月期第2四半期（当第2四半期）は前年同四半期に対しましては、増収減益となりましたが、期首計画に対しましては、売上高及び各利益段階ともにこれを上回りました。

《前年同四半期対比》

- 売上高につきましては、建設事業において、一般建築工事の期首手持工事を中心に施工が順調に進捗したことにより増収となりました。
- 一方、利益につきましては、一般建築工事が増収効果により利益が増加したものの、耐震補強工事の減益分をカバーするには至らなかったことにより、各利益段階において減益となりました。

《期首計画対比》

- 建築工事全般において施工が順調に進捗したことに加え、兼業事業において分譲マンションの販売が好調に推移したことにより、売上高及び各利益段階ともに計画を上回りました。

【H28年3月期通期予想】

- 平成28年3月期につきましては、建設事業において、期首手持工事を中心に施工が順調に進捗していることに加え、兼業事業において、自社開発案件の分譲宅地の販売を予定していることから、売上高は前期実績を上回る見込みです。
- また、利益につきましても、兼業事業の増益が寄与し、各利益段階ともに3期連続で過去最高益を更新する見込みです。

Ⅱ. 事業別の概況

1. 建設事業

- ▶ 当社グループは、公立小中学校の耐震化がほぼ完了を迎える中、安定的な収益を確保するため、建設事業のベースとなる建築・土木工事の安全・品質に関する技術力の確立と受注基盤の強化に加え、不動産開発等へ継続的に取り組むことにより、収益構造の転換を図っております。
- ▶ また、事業規模の拡大と生産性の向上に向けて、得意とする自社開発や設計・施工案件で培ったノウハウを活かし、大型案件への取り組みを加速させるとともに、昨年開設した鉄道技術研修センターを中心に省力化施工等の研究開発を進めてまいります。

1-1. 建築工事

□ 受注高及び売上高の状況

(単位:百万円)

	H27.9実績	H26.9実績	増減額	増減率
連結受注高	25,034	30,957	▲ 5,923	▲ 19.1%
連結売上高	29,916	25,946	3,970	15.3%

① 一般建築工事

- ▶ 一般建築工事につきましては、当第2四半期は、前年同四半期のような大型の商業施設の受注計上がなかったことなどから、受注高は前年同四半期に比べ減少しました。
- ▶ 売上高につきましては、期首手持工事の大型商業施設を中心に施工が順調に進捗したことにより前年同四半期に比べ増加しました。
- ▶ 今後も、設計・施工に関する技術の更なる向上に加え、大型の物流施設・商業施設などへの取り組みを強化することで、受注の拡大を図ってまいります。また、協力会社との連携を一層強化し安定的な労務確保を図るとともに、合同安全パトロールの実施や優良技能者認定制度の導入により安全・品質の更なる向上に注力してまいります。

② 耐震補強工事

□ ピタコラム事業の実績及び予想

(単位:百万円)

	H27.9実績	H26.9実績	増減率	H28.3予想	H27.3実績	増減率
連結受注高	8,512	10,785	▲ 21.1%	13,000	14,289	▲ 9.0%
連結売上高	7,270	9,353	▲ 22.3%	12,500	15,619	▲ 20.0%

- ▶ ピタコラム事業につきましては、公立小中学校の耐震工事が減少したことにより、受注高、売上高ともに前年同四半期に比べ減少しました。
- ▶ 改正耐震改修促進法の施行に伴い、地方自治体の耐震改修助成制度が整備されつつあり、今後、マンションやホテル、病院などの民間分野を中心に耐震化需要が高まることが予想されるため、商品ラインナップの拡充を図るとともに、これまで培った営業ネットワークを活かした受注活動を展開してまいります。

1-2. 土木工事

□ 受注高及び売上高の状況

(単位:百万円)

	H27.9実績	H26.9実績	増減額	増減率
連結受注高	6,281	8,899	▲ 2,617	▲ 29.4%
連結売上高	8,183	6,565	1,617	24.6%

- ▶ 土木工事につきましては、受注高は前年同四半期に比べ減少しましたが、期首手持工事を中心に施工が順調に進捗したことにより、売上高は前年同四半期に比べ増加しました。
- ▶ 今後も、更なるコスト低減に加え、公共工事において、技術提案型の案件への取り組みを一層強化するとともに、民間工事においては、これまで培った許認可業務に係るノウハウや技術を活かし、開発事業に注力することで、土木工事全体の受注拡大を図ってまいります。

2. 兼業事業

□ 売上高の状況

(単位:百万円)

	H27.9実績	H26.9実績	増減額	増減率
連結売上高	4,460	6,072	▲ 1,611	▲ 26.5%

- ▶ 兼業事業につきましては、売上高は前年同四半期に比べ減少しましたが、分譲マンションの販売は順調に推移いたしました。
- ▶ 当社グループは、分譲マンション事業に加え、開発事業や不動産賃貸事業、更には仲介・販売代理業務などの流通事業に注力することにより、収益性の高いポートフォリオの構築を進め、兼業事業全体の持続的成長を図っております。
- ▶ また、名古屋市港区金城ふ頭で建設が進んでいる「レゴランド」と駅や駐車場とを結ぶ動線上において、「モノやコトをつくる喜び」をコンセプトとした複合商業施設の開発を進めるなど、今後とも地域の活性化に貢献してまいります。

① 分譲マンション事業

□ 分譲マンションの実績及び予想

(当社持分)

販売戸数	H27.9実績	H26.9実績	増減	H28.3予想	H27.3実績	増減
契約ベース	160戸	75戸	+85戸	240戸	248戸	▲ 8戸
引渡ベース	87戸	89戸	▲ 2戸	223戸	268戸	▲ 45戸

- ▶ 当第2四半期の分譲マンションの販売戸数は、引渡ベースでは前年同四半期と同水準となり、契約ベースでは大型物件を中心に販売が好調に推移したことにより前年同四半期を大幅に上回りました。
- ▶ 期末に向けては、前期に比べ供給戸数が減少していることから、引渡ベースで前期実績を下回る見通しではありますが、名古屋市内の物件を中心に販売状況は堅調に推移していることから、引き続き、販売戸数の積み増しに注力してまいります。

Ⅲ. 連結財政状態について

□ 連結貸借対照表

資産の部		H27.9実績	H27.3実績	増減
流動資産	現金預金	13,256	16,160	▲ 2,904
	売上債権	26,995	21,809	5,185
	未成工事支出金	5,725	4,386	1,339
	販売用不動産	19,520	19,744	▲ 224
	その他	2,137	1,486	651
	合計	67,635	63,587	4,048
固定資産	有形固定資産	19,396	18,410	985
	無形固定資産	283	269	14
	投資その他の資産	5,756	5,669	86
	合計	25,436	24,349	1,086
繰延資産	0	9	▲ 9	
資産合計	93,072	87,946	5,125	

(単位:百万円)

負債の部		H27.9実績	H27.3実績	増減
流動負債	支払手形・工事未払金等	20,087	17,229	2,857
	短期借入金	8,362	6,562	1,800
	1年内償還予定の社債	2,840	2,840	—
	その他	8,758	8,023	735
	合計	40,048	34,655	5,393
固定負債	社債	90	160	▲ 70
	長期借入金	8,431	10,237	▲ 1,806
	その他	8,133	8,120	13
	合計	16,654	18,517	▲ 1,862
負債合計	56,702	53,172	3,530	
純資産	36,369	34,774	1,594	

- 当第2四半期は、一般建築工事の施工の進捗に伴い、売上債権が約52億円、未成工事支出金が約13億円それぞれ増加し、現金預金が約29億円減少しました。この結果、当第2四半期末の総資産は、前期末に比べ約51億円増加しました。
- 一方、純資産についても、四半期純利益の計上などにより約16億円増加したことから、自己資本比率は前期末とほぼ同水準の39.1%となりました。

□ 配当金

	H28.3予想	H27.3実績	増減
年間配当金	20円	18円	2円
配当性向	20.7%	21.5%	▲0.8pt

□ 主要経営指標

	H27.9実績	H27.3実績	増減
自己資本比率	39.1%	39.5%	▲0.4pt
流動比率	168.9%	183.5%	▲14.6pt
当座比率	100.5%	109.6%	▲9.1pt

以 上